

まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案するにうえて、過去の人口動向の分析や将来人口の推計等客観的な現状分析と将来予測を行うことが重要であることから、人口変化の影響分析を行い人口ビジョンを策定しました。

町の人口は1955年（昭和30年）をピークに一貫して減少し、死亡や他市町村への進学、就職により毎年約70人前後の人口減少。特に結婚適齢期の人口減少による出生数の低下、高齢化率の上昇が顕著となっており、国立社会保障・人口問題研究所は2040年には1,832人にまで減少すると推計しています。

そこで、定住促進施策の展開や産業振興による雇用の拡大、子育て環境の整備を推進し、町民の流出を防ぎ、転入人口の増加を誘導することにより、2040年の目標人口を2,300人として持続可能な地域の実現を展望します。

置戸町まち・ひと・しごと創生総合戦略

目標人口を達成するために「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立することで、新たな人の流れを生み出すこと、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境をつくり出すことによって、まちの創生を図るため、今後5年間の基本目標や基本的方向及び具体的な施策をまとめた「置戸町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

基本目標

- 雇用創出数を増やす

職業として選択できる魅力ある農林業の実現と人材の確保

- 地場資源を活用した産業を創出する

置戸町の特色を活かした産業の振興

- 置戸町からの人口流出を少なくする

住宅環境や公共交通機関の整備、地域の情報化の充実

- 都市圏からの転入者数を増やす

都市圏からの移住促進

- 置戸町で子どもを産み育てる町民を増やす

結婚・出産・子育ての希望をかなえる支援

- 置戸町に住み続ける町民を増やす

保健・福祉・医療の充実、コミュニティ活動の強化、地域文化の振興

